

平成29年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・すすんで作品づくりに取り組む児童が非常に多く、つくることを楽しんでいる。新しいことに挑戦する際の意欲が高く、特に高学年では技術を向上させようという意欲が高まっている。
- ・技能を確実に習得できるよう継続的に指導したことで、技能の定着と応用については、学年が上がるにつれて向上している。
- ・児童作品の相互鑑賞を定期的に行ったことで、作品のよさを見付けて自分の言葉で伝えることが出来る児童が増えた。

(2) 課題

- ・積極的に取り組む児童がほとんどだが、題材によっては苦手意識をもってしまう児童がいるので、取り組みやすくなるように一人一人に応じた支援をしていく。
- ・技能の定着・応用について、向上が見られているが、継続して指導をしていく。
- ・鑑賞に関心をもつ児童が多いので、鑑賞教育を更に充実させたい。作品鑑賞の際に、友人と意見を交換するなどして自分の見方や感じ方を深められるよう指導を続ける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年			
第5学年		(第4学年時)	
第6学年		(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
作品制作時の集中力に個人差が見られるが、多くの児童によりよい作品をつくらうと努力する姿勢が見られる。 <u>特に4年生は作品を最後まで粘り強く仕上げる力がついてき</u>	自分や友達の面白い発想やひらめきに価値を見出している様子が見られる。 作品づくりの見通しをもって進められる児童とそうでない児童がいる。 図画工作で扱う材料	表したいことや用途を考えながら、形や色、材料の特徴を生かそうとしている児童が多い。しかし、技能面で課題がある児童もいる。例えば水彩絵の具の場合、水加減や色の混ぜ方	美術作品や友人の作品への興味がとても強く、もっと見たい、もっと知りたい、という気持ちが強く見られる。 感じたことを言葉に表す力には個人差があるが、 <u>鑑賞の活動</u>

たと感じる。 細部の仕上げや付け足し等、更に良い作品に仕上げするための視点を指導する。	に慣れてきて、特性を生かして工夫しようとする姿勢が見られる。	を工夫できる児童は多いが、ねらった箇所に思い通りの分量の絵の具を塗るといような手先のコントロールが苦手な児童がいる。	を繰り返す中で作品の見方が深まり、感じたことの表現が豊かになっている様子が見られる。
--	--------------------------------	--	--

② 高学年

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
作品制作や鑑賞に集中して取り組んでいる。 より良い作品をつくらうとする意欲が感じられる児童が多い。 今までに経験したことがない課題にも積極的に取り組んでいる。	自分らしい作品をつくらうと試行錯誤している姿がよく見られる。制作のスピードは速くなったが、 <u>題材によっては制作を始める以前の構想を練る時間をしっかり取る必要がある。</u>	今までに学習した事の活用ができている。新しい課題に取り組む際も、これまでの経験で活用できる技能を使用し、表現したいことに合わせて使い分けられる児童が多い。	<u>自分たちの作品、美術作品などを鑑賞してよさや美しさを感じ取ることができている。</u> <u>感性をはたらかせながら作品を観て、その良さを感じ、自分の作品に生かそうとしている。</u>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
つくりだす喜びを味わえるよう、集中・熱中できるような楽しい題材を選ぶ。 体全体を使って伸び伸びと造形活動に親しめるよう、 <u>造形あそびの時間を充実させる。</u>	独自のアイデアを出すことの素晴らしさを伝える。自分らしさを出す工夫をしている児童を賞賛する。 造形遊び等での共同制作を通して色々なアイデアを出し合わせる。	身近な材料や扱いやすい用具に触れ、十分慣れさせながら手を働かせて使う。基本的な扱いについて、繰り返して定着させる。	美術作品や他児童の作品に興味をもつ児童が多い。 作品の発表が好きなので、全員が発表できる機会をつくる。 よさや面白さを感じ取る機会をたくさん作る。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
集中力を持続させられるよう、環境の整備や全体指導の工夫、個々の支援を行	事前に計画を立ててもその通りにいかないことがあるので、無理のない作業計画	学年が上がるにつれ、細かい作業が必要なものを作りたいという欲求が増えて	他の児童の作品や美術作品に対する興味を更に増やせるよう、鑑賞の時間を確

<p>う。<u>作品をより良くしようという思いがあるので、具体的にどのようにしたら作品がもっと良く見えるようになるか作品を見る視点を指導し、技能的なコツを伝える。</u></p>	<p>について全体に指導するとともに、計画を立てる際に個別に支援を行っていく。計画の変更についても指導する。</p>	<p>いる。手先の巧緻性を養うために、繰り返し道具に慣れさせるようにする。ねらい通りの表現ができるよう、コツを繰り返し指導する。児童同士の教え合いも促す。</p>	<p>保する。鑑賞に関わる語彙が増えるよう、自分の考えを表現する機会を増やしなが、指導する。</p>
---	--	---	--

(3) 高学年

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>より良い作品をつくらうとする意欲を継続できるよう支援する。 今までに経験したことがない課題に取り組む際は、<u>事前に準備になるような課題を行うことを継続し、どの児童も楽しんで取り組めるようにする。</u></p>	<p><u>題材によっては制作を始める以前の構想を練る時間をしっかり取る必要がある。</u> 発想・構想の助けになるよう、個別の声掛けや参考資料の提示などの支援を行う。</p>	<p>今までに学習した事柄の活用ができる児童が多いので、今までに取り組んだことのない課題や難易度が高めで達成感のある課題を用意することで、更なる活用の機会を増やし技能の向上を目指す。</p>	<p>美術作品の鑑賞の時間を増やす。グループ発表等、意見交換の場を設ける。 感じたことや思ったことを話し合う活動の中で、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる機会を多くつくる。</p>